## 同窓生シリーズ 第94回

# 14回生 井手 峻 Takashi Ide

略歴／
1959年　都立新宿高校入学
1963年　東京大学入学　理科Ⅱ類　入学
1966年　三菱商事の内定を断り、ドラフト会議にて中日ドラゴンズから3位指名を受け入団
1967年　投手として一軍で活躍、9月に初勝利
1970年　外野手に転向
1973年　5月、東大卒プロ野球選手で唯一の本塁打を打つ
1976年　現役引退
1978～1995年　中日コーチ
1987年～　中日の球団フロント入り。その後、球団取締役、球団代表兼連盟担当、取締役相談役等を務める
2015年　退任
2016年　学生野球資格回復
2017年　都立新宿高校の外部コーチに招聘

## 東大野球部から、史上2人目のプロ野球選手へ。「文武両道」の大先輩にお話をうかがいました

現在、新宿高校の硬式野球部の外部コーチとして、週に1度練習をみてくださっている井手さん。今回は、硬式野球部顧問で52回生の田久保裕之先生による、井手さんのインタビューをお届けします。

**――井手さんはどうして新宿高校を選ばれたんですか？また、野球はいつ頃から始められたんですか？**

私の母がすごく教育熱心だったんです。母の希望で私は地元の中学ではなく、新宿高校への進学率の高い新宿区の区立中学へ通学することになり、そこから新宿高校へ入学しました。野球は小学生の頃から好きでした。しかし中学では勉強に差し支えるからと、野球部への入部を母に止められて。高校でも同じように硬式野球部への入部を反対され、最初は軟式テニス部に入ったのですが、高1の5月頃、母に内緒で硬式野球部に転部しました。

**――新宿高校の当時の雰囲気や、硬式野球部の様子を教えてください。**

当時、部員は多いときで15～6人、今とあまり変わりませんね。夏の公式戦の直前だけ卒業生が監督として来てくれましたが、普段の練習は自分たちだけ。練習試合もほとんどなかったですね。でも戸山戦では勝ちましたよ。

当時の新宿高校は、60年安保の学生運動の雰囲気がありながらも、全体としては男子のほとんどが東大を受験するような進学校でした。部活で遅くなると「いつまでやってるんだ！」って先生に怒られた記憶もあります。私は高校時代は勉強は全くできていなくて。1浪してやっと東大に入学しました。

**――そして東大野球部に入られたんですね。**

最初は入るつもりはなかったんですよ。勉強と野球の両立は大変だと高校時代に身にしみてたから。それが入学後、東大野球部にいた高校の先輩にすぐ捕まって、野球部の寮に入れられることに（笑）。当時の東大野球部は全部で3～40人。私は1年の春から内野手としてベンチに入り、3年の春からは投手としてレギュラー入りしました。大学でも勉強との両立はやはり大変でしたね。野球が忙しくてなかなか勉強の時間が取れず、本当は建築にも興味があったのだけど、成績が足りなくて。農学部に進み、木材や紙パルプの研究をしていました。

井出さんと田久保先生

**――商社への就職が決まっていたところでプロ野球入りのお話があったわけですね。どうやって決断されたんですか？**

紙パルプの研究をしていたので、当初は製紙会社も考えていたんです。実際に社会人野球チームのある製紙会社からのお話もあったのですが、「また仕事と野球の両立をするのは苦しいな」と思い、野球と関係のない商事会社へ就職することを、大学4年生の6月くらいに決めていました。ところが秋のドラフト会議の当日、「中日に3位で指名されたぞ！」って。そこからもちろん迷いはしたわけですが、最終的には「プロ野球なら、仕事と野球の両立に悩むことなく野球だけやれる」と、血が騒ぎました（笑）。両親にも、大学の監督や友人にも相談はしなかったですね。全部、自分で決めました。

**――プロ野球の世界へ足を踏み入れて、最初はどんな印象でしたか？また、現役時代のお話も聞かせてください。**

入団して最初に2軍の練習に参加したとき、さすがに「みんな身体大きいし球が速いな、ついていけるかな」とは思いました。でもそれより、「こんな野球が上手い人たちの中で一緒にやれる！」ということがとてもうれしかったですね。プロ1年目の5月か6月には1軍に上がり、中継ぎ、そして先発として投げ、9月には1勝を上げることができました。ただその後はなかなかピッチャーとしての出番がなくなり、投げ方を変えたことが原因で肩を傷めてしまいました。1軍と2軍を行き来しながら、ピッチャーを3年、内野手を2年、計5年やったところで引退を考えたんですよ。

そんなときに、新しく来た与那嶺要監督に、「外野の守備を強化したいから、外野手になってほしい」と言われて。また、足の速さも買っていただき、外野手と代走としてそこから5年間、1軍に定着しました。

**――井手さんは、東大卒プロ野球選手でホームランを打った唯一の人でもありますよね。**

後楽園球場での対巨人戦、同点延長戦10回の表、ツースリーからのホームランでした。その頃、私は打席に立つ機会はそれほど多くなかったんですよ。それが同点の場面に出ることになったので、バッターボックスに入ったときは膝がガタガタ震えていて。「あ、これキャッチャーに見られたらまずいな」って思ったくらい（笑）。それが投球が続いていくうちに、スゥーッと周りが全部消えていく。明鏡止水っていうんですかね。最初は「三振だけは嫌だな」と思っていたのが、最後にはただ「打ってやろう」という気持ちに変化していったんです。ああいうことは初めてでしたね。プロ生活で一番記憶に残っています。

**――現役引退後は、中日で様々な役職を務められます。**

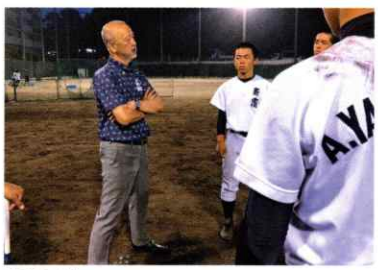
1軍と2軍のコーチを計9年、その後は球団フロントとして編成担当や球団代表をやりました。最後は相談役を務め、70歳で引退しました。

**――私（田久保先生）はまだ前任校にいた頃から、「いつか井手さんに新宿高校の指導をお願いしたい！」というのが夢でした。そして昨年の春に私が新宿高校に赴任することになったときに、真っ先に井手さんに硬式野球部の外部コーチをお願いしたのです。あまり強くないので、引き受けていただけるか心配だったのですが…。**

いやいや（笑）、いいチームになってきていますよ。中日のときの先輩である権藤博さんに今の硬式野球部の話をしたら、「いいんだよ、野球の指導というのは、勝つ姿勢をつくることが大事なんだ」って。私も本当にそうだと思うので、それを目指していきたいですね。

**――最後に、現在の新宿高校生にメッセージをお願いします。**

今の野球部やその他の運動部の皆さんは、部活と勉強、現役での大学受験を目指しているのが、本当にすごいなと思っています。私にはできなかったことをやっている。私は高校で野球やっている間は、勉強ができていなかったからね。でも大学に入ったら、野球と勉強をちゃんと両立させてきたチームメイトがちゃんといたんですよ。彼らを見て、自分ももっとやれたんじゃないかなと思う面はあります。だから新宿高校生の皆さんも、がんばってください。きっとできる！



練習風景

**――ありがとうございました。**